

九州地域における飼料増産に向けた平成18年度行動計画

飼料増産運動

17年度の実績と成果

- 九州管内7県で、自給飼料増産行動会議及び増産行動計画を策定
- 稲発酵粗飼料(WCS)、国産稲わら、放牧利用可能地、作業受委託の需給マップ、ネットワークを設置
- 飼料増産に取り組む重点地区を30地区決定

課題

- 生産者の認識や耕種農家と畜産農家との連携が不十分
- 需給マップ・ネットワークの構築に地域的なばらつきや格差
- 取組を点から面に広げることが必要

対応方針

- 取組主体・地域ごとの工程管理と点検・検証の徹底や取組が低調な地域への集中的な働きかけ
- 飼料生産に関する情報提供、専門指導者の育成
- 調査の継続的实施、需給マップやネットワークの充実と斡旋・仲介活動の強化
- 重点地区に対する指導・支援の充実と地区数の拡大

行動計画

組織的な取組の推進

全国・地域レベルでの自給飼料増産行動会議の開催及び18年度増産行動計画の早期策定と着実な実行

工程管理と点検・検証の徹底

成果の普及

取組が低調な地域への集中的な働きかけ

飼料増産重点地区等の取組成果の普及拡大の推進

飼料増産重点地区

地区数の拡大

H17	H18(目標)
30地区	40地区

(各都道府県において1地区以上追加)

飼料増産重点地区における具体的な目標設定とその達成に向けた支援・指導の強化

稲発酵粗飼料(WCS)作付け拡大

17年度の実績と成果

18年度作付け増産重点活動
(17年12月～現在)

耕畜連携シンポジウムや稲発酵粗飼料に係るパンフレットを作成・配布

作付け面積の増加
H16 H17
2,308ha 2,348ha(+40ha)

課題と対応方針

地域水田農業協議会への情報提供や畜産関係者の積極的な参画を通じた産地づくり対策における稲発酵粗飼料の位置づけの向上が必要

アンケート調査の継続的な実施
需給マップ・ネットワークの活用
専門指導者の育成
コントラクターの活用

行動計画

18年産WCS増産活動
稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアルの活用等による単収・品質の向上
2,571ha(18年産目標)

19年産WCS作付け増進重点活動の早期実施 2,650ha超(19年産目標)

需給マップ・ネットワークを活用した斡旋・仲介活動

生産助成、給与助成、収穫機械整備支援等の活用

イネWCS養成コーディネーター研修

国産稲わら利用拡大

17年度の実績と成果

17年産稲わら需給調整重点活動

供給可能県と不足県を一同に会した調整(意見交換会等3回開催)

耕畜連携シンポジウムや国産稲わらに係るパンフレットを作成・配布

九州ブロック内における県間供給の実施により、9月段階不足量7万トンが12月には5万2千トンまで減少。

国産稲わら利用量の増加
H16 H17
32万トン 39万トン(+7万トン)

課題と対応方針

完全自給のため、保管場所の確保、輸送経費の低減による広域流通体制の確立が必要

稲わら収集に係る取組を通年で実施
アンケート調査の継続的な実施
需給マップ・ネットワークの活用
収穫機械、保管場所の整備
コントラクターの活用

行動計画

斡旋仲介重点活動の早期実施
(5月～8月)

収集活動強化の早期実施
(9月～11月)

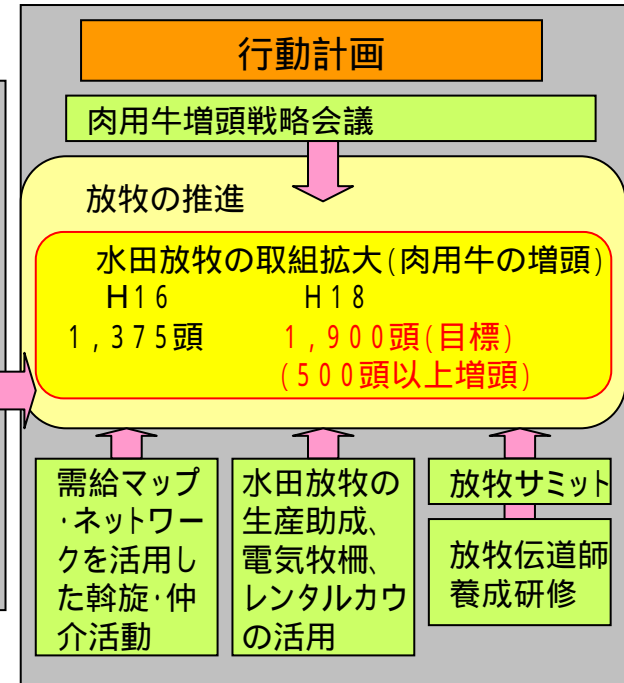
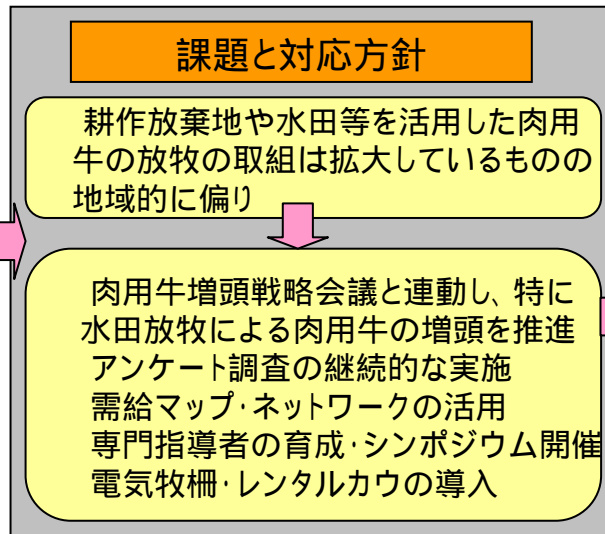
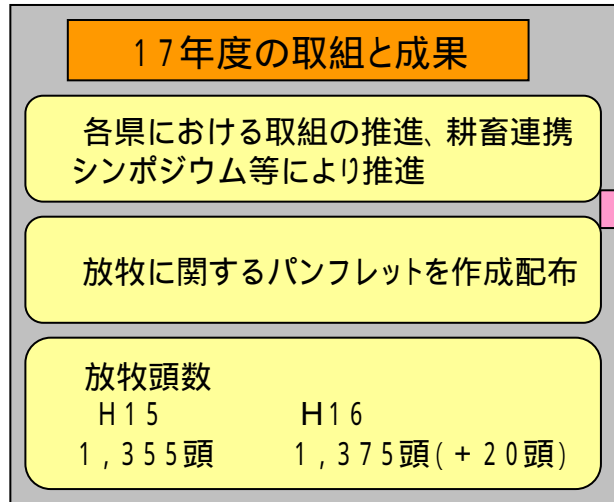
(広域)需給調整の実施
(10月～12月)

需給マップ・ネットワークを活用した斡旋・仲介活動

耕畜連携による利用助成、収穫機械・保管場所整備支援等の活用

九州管内における国産稲わら100%自給

放牧の推進



外部化の推進

